

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170501084), 法人名 (有限会社 北海道ふれあいの家), 事業所名 (グループホーム ふれあいの家・月寒), 所在地 (札幌市豊平区福住1条1丁目9番24号), 自己評価作成日 (令和元年11月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、地下鉄駅に近い静かな住宅街に位置した広い庭つきの古民家を改修した一軒屋です。庭には春から秋まで花が咲いています。その片隅には菜園があり、野菜作りを楽しんでいます。女性だけの7名の利用者さんとそのスタッフが寄り添いながら、穏やかな生活を送っています。町内会の皆様には優しく親切に見守って頂き、町内会の祭事、清掃、災害訓練等などには積極的に参加させていただき交流を深めています。食事は全部手づくりで食材は産地にこだわったものを使っています。利用者様の個人を尊重した生活介護を心がけております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JieyosyoCd=0170501084-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年10月10日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、最寄りの地下鉄やバスターミナルから至近距離にあり、周辺は大型商業施設やスーパー、コンビニ、寺院等が建ち並んでいる。民家を改造しており、住宅街に溶け込んでいる。地域とは、相互の行事で参加交流があり、自然体な近所付き合いが行われている。町内会の祭りでは、子供神輿が事業所前庭を休憩所とし、利用者はお賽銭を用意して出迎え、法被姿の子供達と写真に納まっている姿や、七夕祭りでは、短冊に「百歳までいきたいです」など願い事をしたため、全員が浴衣姿の写真が事業所便りに掲載されている。職員は、理念である「思いやりの心」を実践し、安心安全に暮らし続けられる支援を、家族と連携して行っている。バラエティーに富んだ食事作りや、居間から見える樹木や花々が彩りよく咲き乱れており、心豊かな生活が垣間見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしくゆっくりと暮らしていけるよう当事業所の理念である「思いやりの心」を基本とし利用者に寄り添った介護サービスに努めている	地域との関係性を大事にしている事業所である。「思いやりの心」を理念に掲げ、利用者の気持ちに寄り添った支援に努めている。地域との関わりを反映した理念の策定を検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。町内会清掃、防災訓練、盆踊りなどにも参加し夏祭りの子供みこしはホーム前が役員さんの心遣いで一服の場所になり利用者がお賽銭を上げて子供のハッピー姿を似てみて喜ぶ光景がある。	地域とは、相互の行事で交流がある。町内会主催の花壇作りに利用者に参加をし、散歩がてら水遣りや草取りを行っている。住民から、花苗や野菜の差し入れがあり、また、介護の相談等で来訪があるなど、自然な近所付き合いの関係にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括の地域の人が認知症を知る研修等がありその役割を快く引き受け又参加させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者状況を報告し、災害対策、行事について検討する。包括、地域住民、家族に参加頂いている。又、利用者家族の運営推進会議で当ホームを利用しての家族の講和を頂きケアに反映している	会議は、多数の町内会関係者や家族、地域包括職員の出席の下、年6回開催している。現状報告後に、重度化等の事例検討や利用者に対するケアへの質問、外部評価結果公表、同日時に行った避難訓練について協議している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より電話や窓口で事業所運営やケアサービス、法令等解らない時は意見、教えを頂く。	行政とは主にホーム長が担当し、状況により担当窓口に出向いたり、電話で相談等を行い、助言や提案を運営やケアの充実に生かしている。利用者の状況確認で来訪の担当者や情報交換や、行政も参加の管理者会議等で協力関係にある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には、鍵をかけないケアをし、職員は交互に研修を受け、内部研修では身体拘束のマニュアルを利用し具体的なことを確認する勉強をしている。	玄関壁に、身体拘束廃止に対する理念や指針を掲示し、実践に努めている。拘束や虐待の具体例や弊害については、外部・内部研修や業務で正しい理解に繋げ、職員間でも注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修に出席し内部会議などにおいて職員と勉強会をし、虐待の認識を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今、現在対応しなければならない利用者はいないので研修会に出席した資料を基に職員は知識としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を十分に行い理解、納得頂いている。状態変化などの際は家族と面談し、対応方針を相談している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にも全家族へ参加をお願いし委員の意見を聞き家族も発言の機会をしやすい雰囲気をつくる努力をしている。日常の家族来訪時特に誕生会では必ず家族の意見、要望を求め反映につとめております。	定期的な「ふれあい便り」には、行事や日常の様子をコメント入りの写真で掲載している。家族の面会時や行事での来訪時には、詳細を伝えており、その中で出された意見には、速やかに対応している。職員は、何よりも家族との信頼関係構築に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部会議、朝夕の引継ぎ、又は日頃の業務の中で職員からの意見、提案に耳を傾け全職員で検討し又、不満や苦情などは個別に意見、要望を聴くようにして、いずれも可能な限りは反映している。	業務は職員全員で担い、スキル向上に繋がっている。ホーム長や管理者は、業務上や会議、個別面談等で、職員の意見や提案を受けとめ、業務改善や労働環境の整備に生かしている。休みや外部研修の要望には、柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を整備		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに研修が受けられる機会を与え計画実践している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者連絡会に参加し研修会などでも交流を深めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	始めの段階ではわからない本人の感情・言葉・生活歴を感じ取り、観察を密にし理解するようコミュニケーション作りをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面談、訪問時の会話や表情からその人を理解するよう努めどのように対応できるかを話し合い共有し合えるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と本人との十分な話し合いの上、現状の理解とより良い状態になるような支援を見極め対応出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で本人ができる事は声かけで一緒に対応又援助し一緒に暮らしを意識している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事などを情報共有に努めながらご家族と同じような思いで支援している事を伝えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人が訪問の際には居心地良くゆとりと過ぎていただけるよう心がけています。	面会に訪れる方々を居間や居室に案内し、茶菓でもてなしをしている。家族の支援で食事や自宅、美容室に出かけている。利用者にとって訪問美容師は、馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの表情や性格、身体状況を見極めて職員が声かけや支援を行っていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もプライバシーを守り、今までと変わらない対応をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりとの会話や表情や様子から本人が何をどうしたいか等の意向や思いを汲み取り、職員間で情報交換しながら本人の希望に添えるよう努めている。	利用者との関わりから要望を見極め、難しい場合は声かけを多くし、笑顔になった瞬間を「いいね」の言葉と判断している。不穏になった時は、職員間で原因を探るなど、改善に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴に関する情報やサービス利用の経過等本人や家族やサービスを提供していた事業所に情報提供を受け把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子や状態を見ながら心身状態を職員間で把握しその日に合わせた生活の支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにおいて課題の有無ケアのあり方等を検討し相談ながら現状にあった介護計画の見直しに活かしている。	介護計画更新時は、日常の中から得た利用者や家族の生活への意向を尊重している。会議で評価や課題分析を行い、適切な支援になるよう検討している。急変時は、新たな支援を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子や表情・会話・排泄・食事量・水分摂取等個別の介護記録に記入し申し送りの中で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望に合わせた外出、又誕生会には家族を招待し一緒にお祝いする時間を設けている。通院も家族と都合を相談しながら援助します。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民や地域の人々の力を借りながら見守られた生活を送れるよう協働している。町内会の行事、清掃にも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が納得した医療機関を確保している。4週に一度の主治医による訪問診療、職員による通院介助をしています。	殆どの利用者は、月1回の協力医による訪問診療を受けている。入居以前からのかかりつけ医への受診は、家族が同行している。さらに、週1回の訪問看護師による健康管理香行われ、早期の手当や受診に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理など細かな変化を申し送りや内部会議を通して個々の利用者の状態を看護師に伝え相談し適切なアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入院時には病院関係者への情報提供をしています。担当の相談員との情報交換をしながら入院の状況の得られるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について事業所として対応できる最大限のケアについて利用開始時本人や家族の充分説明しています。主治医と連携を図り対応方針を家族と職員は共有しています	入居時に、重度化や終末期の対応について出来る事、出来ない事を説明し、同意を得ている。最大限のケアを行い、食事摂取が不可能になった時点で家族に報告し、主治医の判断を仰いでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	札幌市防災協会による防火救命救急法の研修を通じて応急手当ができるよう学習しています。看護師と各利用者に合わせて急変事の対応について話し合っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を運営推進会議の中で毎回実施しています。毎月自主訓練をしています。利用者を変えて何分で避難が出来るのかを全職員が訓練しています。地域住民の訓練参加や緊急通報の協力が得られ体制を強化しています。	年2回、消防署や地域住民の協力を得て、日中・夜間想定避難訓練を実施している。さらに、残りの月は自主訓練に当て、防災意識を高めている。運営推進会議当日に訓練を行っており、メンバーから意見や提案が得られている。	消防署主催の、介護従事者向け消防アドバイス研修に参加した職員からの情報を共有しているが、さらに、自然災害やあらゆるケア場面を想定しての訓練の充実を検討しているので、その取り組みに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを大切に考え、その時の状況により言葉かけにて対応しています。	事業所理念である「思いやりの心」を念頭にケアサービスを行い、利用者とは目線を合わせて支援を行っている。呼称は基本的に名字とし、申し送り時はイニシャルを使用、個人関連書類も適正に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話の中で本人の思いや希望を引き出せるよう声かけにて対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のできる事は自身のペースでやってもらい、職員は常に見守り続け、必要時の介助・本人にとって危険ではない限り本人の希望を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と共に着たい服を選んでもらったり、見守り・アドバイスの言葉かけをして、その人らしいおしゃれができるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる調理・盛り付け・片づけを支援している。昼食は職員と共に座り会話しながら頂いています。「ありがとう・助かります」の言葉かけは忘れずにしています。	朝礼時に一汁三菜を基本としたメニューを決め、居間に掲示している。利用者の協力を得て食事作りを行い、食卓を共に囲んでいる。家族参加型の誕生日は、リクエストメニューとし、祝い膳を用意している。状況により、食事処で祝いの席を設け、総出でお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量・水分摂取には十分気をつけています。栄養バランスも栄養士に目を通してもらう。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた口腔ケアをしています。 1日1回義歯洗浄剤使用。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人への配慮した声かけで安心感を持っていただけるよう心がけている。不快感を与えないよう注意し自立に向けた声かけ誘導を行なう。	入浴は週2回を基本とし、職員の支援の下、全員が湯船で寛げる態勢にある。拒否があれば、「食事が美味しく食べられるよ」「ぐっすり眠れるよ」など、出来るだけ話しかけ入浴に繋げている。入浴時は、コミュニケーションの場にもなり、ケアプランに生かしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のメニューを色々考え工夫しています。水分量、又体操・レク等で適度の運動もされています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせて状況に応じて対応しています。拒否のある場合は、声かけの工夫、順番の変更等で対応しています。	自力でトイレを使用する方や、誘導でトイレでの排泄が可能になるなど様々だが、失敗による不快感を減らす取り組みを行っている。トイレまでのコースを歩行訓練の機会と捉え、機能維持にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分自身で眠りにつくまで見守っています。心地よく安心して寝られるよう心掛けています。眠れない時は本人の話を傾聴しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用時は必ず名前と本人の確認をし、手渡して飲み込むまでしっかり確認する。服用後の観察も心がけ医師への報告につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調に合わせて楽しく居間で過ごしていただくよう声かけ・見守りを行なう。職員も談話に入り個々の嗜好品をいただきながら楽しい雰囲気を作り上げる努力をする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の健康状態・希望に合わせて徒歩や車を利用し、レストラン等で外食。買物、季節に合わせて花見・菖蒲園等に積極的に支援し楽しんでいただいている。	日常的に、周辺の散歩、花壇や菜園を眺めながらの日光浴を行っている。外食を楽しんだり、花菖蒲や桜、コブシなどを観賞する外出行事等も企画し、気分転換や五感刺激に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人個人の金銭出納帳を用意・記帳しホームで管理している。本人より希望の物がある時は、一緒に買物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・知人への手紙・電話は希望時に自由にできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭のような雰囲気であらげるよう心がけ、季節を感じる事ができるよう花を飾り、壁絵等で工夫している。日付けがわかるよう大きなカレンダーで対応している。温・湿度をチェック。冷暖房・清浄器・除湿器で調整している。	民家改造型なので、一般住宅と変わらない間取りで玄関には生花が飾られている。居間には神棚やピアノ、コスモスをあしらった利用者との共同作品、鉢物があり、ベランダからは四季折々に樹木や花々が眺められ、癒しの空間になっている。空調など、生活環境にも配慮がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間以外、2階のベランダ前にテーブルセットを用意。日当たり・風通し良く自由な空間があり歓談している。夏には庭にもテーブルセットをし花を見たり日光浴を楽しめる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	収納棚・タンスがあり、整理整頓ができるようになっています。各自好みに合わせ、絵・写真等を飾り居心地良い部屋にしている。	居室はそれぞれ違いがあるが、ベット、タンス、袋戸棚が設置され、整理整頓が行き届いている。利用者が安心して暮らせるよう、装飾品やぬいぐるみ、生活用品など、馴染みの物が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・トイレ・浴室・階段・廊下に手摺り設置。足の不自由な方にも安心して移動できるよう照明を多くつける工夫をしている。		